第４章　文化財に関する既往の把握調査

１　文化財の調査の概要

(1) 文化財の調査

本市に関する文化財に関する調査として、市町合併の平成 16 年（2004）以前には、旧市町でそれぞれ市・町史編纂が行われ、それに伴う調査が行われてきました。文化財冊子についても、旧市町でそれぞれ発行されており、平成 26 年に新版『砺波市の文化財』を発行しました。

富山県が実施した文化財調査を含め、本市の文化財に関する郷土史類、自治体史、調査報告書等の一覧は次のとおりです。

■市・町史

種類	書籍名等	編集者・発行者等	発刊年	西暦	地区
他	砺波市史	砺波市史編纂委員会	昭和 59 年	1984	－
〃	砺波市 50 年史	砺波市史編纂委員会	平成 16 年	2004	－
〃	砺波市史資料編１（考古　古代・中世）	砺波市史編纂委員会	平成 2 年	1990	－
〃	砺波市史資料編２（近世）	砺波市史編纂委員会	平成 3 年	1991	－
〃	砺波市史資料編３（近現代）	砺波市史編纂委員会	平成 5 年	1993	－
〃	砺波市史資料編４（民俗・社寺）	砺波市史編纂委員会	平成 6 年	1994	－
〃	砺波市史資料編５（集落）	砺波市史編纂委員会	平成 8 年	1996	－
〃	庄川町史上巻　前半	庄川町史編さん委員会	昭和 50 年	1975	庄川町
〃	庄川町史上巻　後半	庄川町史編さん委員会	昭和 50 年	1975	庄川町
〃	庄川町史下巻　前半	庄川町史編さん委員会	昭和 50 年	1975	庄川町
〃	庄川町史下巻　後半	庄川町史編さん委員会	昭和 50 年	1975	庄川町
〃	庄川町史続巻　前半	庄川町史編さん委員会	平成 14 年	2002	庄川町
〃	庄川町史続巻　後半	庄川町史編さん委員会	平成 14 年	2002	庄川町

■文化財冊子

種類	書籍名等	編集者・発行者等	発刊年	西暦	地区
他	砺波市の文化財	砺波市文化財保護審議会	昭和 44 年	1969	－
〃	新版「砺波市の文化財」	砺波市教育委員会	平成 26 年	2014	－
〃	庄川町の文化財	庄川町教育委員会・庄川町文化財保護審議会	平成 16 年	2004	庄川町
有	ちょっと昔のとなみの民具	砺波郷土資料館	平成 27 年	2015	－
〃	重要有形民俗文化財「砺波の生活・生産用具」6900 点パンフレット	－	－	－	－
〃	砺波市太田の石仏	砺波市教育委員会	昭和 56 年	1981	太田
〃	砺波市の石仏 第 2 集　中野・梅檀野	砺波市教育委員会	昭和 59 年	1984	－
〃	砺波市の石仏 第 3 集　油田・庄下・柳瀬・南般若	砺波市教育委員会	昭和 60 年	1985	－
〃	砺波市の石仏 第 4 集　鷹栖・若林・林・高波	砺波市教育委員会	昭和 61 年	1986	－
〃	砺波市の石仏 第 5 集　出町・五鹿屋・東野尻	砺波市教育委員会	昭和 62 年	1987	－
〃	砺波市の石仏 第 6 集　般若・東般若・梅檀山	砺波市教育委員会	昭和 63 年	1988	－
〃	庄川町　石仏とこころ	庄川町ボランティアたんぽぽグループ	平成 16 年	2004	庄川町

※種類　有…有形文化財　無…無形文化財　民…民俗文化財　記…記念物　文…文化的景観　埋…埋蔵文化財
他…その他

■調査報告書等

種類	書籍名等	編集者・発行者等	発刊年	西暦	地区
有	砺波市常福寺阿弥陀如来立像の造立背景に関する一式論	杉崎貴英	平成 19 年	2007	南般若
〃	砺波の民具　第 1 集	砺波郷土資料館	平成 10 年	1998	－
〃	砺波の民具　第 2 集	砺波郷土資料館	平成 11 年	1999	－
有	砺波の民具	砺波郷土資料館	平成 18 年	2006	－
有	国際常民文化研究叢書　第 14 巻民具の機能分析に関する基礎的研究	神奈川大学国際常民文化研究機構	令和 3 年	2021	－
〃	盤若台書籍目録（閑静四年）（砺波市芹谷　芹谷山千光寺古文書調査報告書）	砺波市教育委員会	平成 10 年	1998	栴檀野
〃	金子文書・折橋文書調査報告書	富山県教育委員会	昭和 49 年	1974	－
〃	金子文書（砺波市史）	金古文書編集委員会	昭和 51 年	1976	－
〃	華蔵閣厳照寺	般若郷史学会	昭和 24 年	1949	栴檀野
〃	旧金岡家住宅修理工事報告書	砺波市教育委員会	平成 19 年	2007	出町
民	となみの手仕事「酒樽づくり」	砺波の伝統技術を記録保存する会	平成 20 年	2008	－
民	となみの手仕事「五箇簑・ナタヘゴ（鉈鞘）」	砺波の伝統技術を記録保存する会	平成 21 年	2009	－
民	谷口製瓦における瓦製作道具調査報告書	谷口製瓦における瓦製作道具調査会	平成 27 年	2015	－
有	旧中越銀行本店	郷土資料館	－	－	－
記	名水を訪ねて　12　富山の名水（瓜裂清水）	高倉盛安	平成 2 年	1990	東山見
埋	砺波市遺跡詳細分布調査報告 1	砺波市教育委員会	平成 17 年	2005	－
〃	砺波市遺跡詳細分布調査報告 2	砺波市教育委員会	平成 18 年	2006	－
〃	砺波市遺跡詳細分布調査報告 3	砺波市教育委員会	平成 19 年	2007	－
〃	砺波市遺跡詳細分布調査報告 4	砺波市教育委員会	平成 20 年	2008	－
〃	砺波市遺跡詳細分布調査報告 5	砺波市教育委員会	平成 21 年	2009	－
〃	砺波市遺跡詳細分布調査報告 6	砺波市教育委員会	平成 22 年	2010	－
〃	砺波市遺跡詳細分布調査報告 7	砺波市教育委員会	平成 23 年	2011	－
〃	砺波市遺跡詳細分布調査報告 7　遺跡地図編	砺波市教育委員会	平成 23 年	2011	－
〃	富山県指定史跡増山城跡調査中間報告書	郷土資料館 / 砺波散村地域研究所 / 増山城跡調査グループ	昭和 62 年	1987	栴檀野
〃	増山城跡総合調査報告書	砺波市教育委員会	平成 20 年	2008	栴檀野
〃	平成 9 年度増山城跡総合調査概報　増山城跡Ⅰ	砺波市教育委員会	平成 24 年	1998	栴檀野
〃	平成 10 年度増山城跡総合調査概報　増山城跡Ⅱ	砺波市教育委員会	平成 25 年	1999	栴檀野
〃	平成 11 年度増山城跡総合調査概報　増山城跡Ⅲ	砺波市教育委員会	平成 26 年	2000	栴檀野
〃	平成 12・13 年度増山城跡総合調査概報増山城跡Ⅳ・Ⅴ	砺波市教育委員会	平成 27 年	2002	栴檀野
〃	平成 14 年度増山城跡総合調査概報　増山城跡Ⅵ	砺波市教育委員会	平成 28 年	2003	栴檀野
〃	平成 15 年度増山城跡総合調査概報　増山城跡Ⅶ	砺波市教育委員会	平成 29 年	2004	栴檀野
〃	富山県砺波市　増山城跡発掘調査報告	砺波市教育委員会	平成 28 年	2003	栴檀野
〃	富山県砺波市増山裏亀山遺跡発掘調査報告	砺波市教育委員会	平成 29 年	2004	栴檀野
〃	増山遺跡発掘調査報告	砺波市教育委員会	平成 30 年	2018	栴檀野
〃	徳万頼成遺跡発掘調査報告Ⅰ	砺波市教育委員会	平成 21 年	2009	般若
〃	徳万頼成遺跡発掘調査報告Ⅱ	砺波市教育委員会	平成 23 年	2011	般若
〃	徳万頼成遺跡発掘調査報告（富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告）	富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	平成 28 年	2016	般若

〃	久泉遺跡発掘調査報告Ⅰ	砺波市教育委員会	平成16年	2004	太田
〃	久泉遺跡発掘調査報告Ⅱ	砺波市教育委員会	平成17年	2005	太田
〃	久泉遺跡発掘調査報告Ⅲ	砺波市教育委員会	平成19年	2007	太田
〃	久泉大溝跡試掘調査報告	砺波市教育委員会	令和4年	2022	太田
〃	庄川町松原遺跡発掘調査中間報告	庄川町教育委員会	昭和45年	1970	東山見・青島
〃	富山県砺波市厳照寺遺跡緊急発掘調査概報	富山県教育委員会	昭和52年	1977	梅檀野
〃	富山県砺波市宮森新北島Ⅰ遺跡緊急発掘調査概要	富山県教育委員会	昭和53年	1978	東般若
〃	富山県砺波市梅檀野遺跡群予備調査概要	富山県教育委員会	昭和53年	1978	梅檀野
〃	壇ノ城跡試掘調査報告書	庄川町教育委員会	昭和59年	1984	雄神
〃	秋元遺跡発掘調査報告	砺波市教育委員会	平成2年	1990	南般若
〃	秋元遺跡発掘調査報告書	砺波市教育委員会	平成2年	1990	南般若
埋	高道向島遺跡	砺波市教育委員会	平成11年	1999	庄下
〃	平成10年度庄川町松原遺跡埋蔵文化財宝蔵地発掘調査概要	庄川町教育委員会	平成12年	2000	東山見・青島
〃	須蘇末峠A遺跡調査概報	砺波市教育委員会	平成13年	2001	梅檀野
〃	富山県庄川町埋蔵文化財分布調査報告書	庄川町教育委員会	平成16年	2004	庄川町
〃	安川天皇窯跡発掘調査報告	砺波市教育委員会	平成17年	2005	般若
〃	砺波市遺跡地図	砺波市教育委員会	平成23年	2011	－
〃	松原遺跡発掘調査報告	砺波市教育委員会	平成24年	2012	東山見・青島
〃	御館山館跡発掘調査報告	砺波市教育委員会	平成26年	2014	高波
〃	大丹保遺跡発掘調査報告	砺波市教育委員会	平成26年	2014	東山見
〃	柳瀬比賣神社石造物報告	砺波市教育委員会	平成28年	2016	柳瀬
〃	三合新遺跡・三合新芹谷遺跡発掘調査報告	富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課	平成29年	2017	－
有	砺波市歴史資料調査報告書　第1集 鷹栖村四谷与一旧蔵文書目録・新屋敷村村方文書目録 北高木村方文書目録・佐伯家文書目録・伊藤家文書目録 円長寺文書目録・江波村方文書目録・南高木村方文書目録 光福寺文書目録・金子文書目録補遺・桜井家文書目録	砺波市教育委員会	昭和57年	1982	－
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第2集 中野村方文書目録・小杉村方文書目録 江畑俊孝蔵文書目録・入道家文書目録	砺波市教育委員会	昭和58年	1983	－
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第3集 神島村方文書目録・新屋敷村方文書目録（明治以降） 大窪今田又四郎家文書目録・大窪山田家文書目録 久泉村佐伯家文書目録・十村権正寺島家文書目録	砺波市教育委員会	昭和59年	1984	－
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第4集 太田村文書目録	砺波郷土資料館／砺波市教育委員会	昭和63年	1988	－
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第5集 杉木新町文書目録・町蔵宿小幡家文書目録 大辻中村家文書目録・鹿島河合家文書目録 紺屋島村田地割文書目録・十年明浅谷家文書目録 中野藤井家文書目録・柳瀬新村村方文書目録 安川坂井家文書目録	砺波郷土資料館	平成6年	1994	－
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第6集 竹部弥平次文書目録	砺波郷土資料館	平成8年	1996	－

※種類　有…有形文化財　無…無形文化財　民…民俗文化財　記…記念物　文…文化的景観　埋…埋蔵文化財
他…その他

〃	砺波市歴史資料調査報告書　第7集 東開発安藤家文書目録・東開発村方文書目録 鹿島村方文書目録・五鹿屋村役場文書目録	砺波郷土資料館	平成9年	1997	−
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第8集 東野尻村役場文書目録	砺波郷土資料館	平成10年	1998	−
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第9集 菅野家文書目録	砺波郷土資料館	平成11年	1999	−
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第10集 深江舘修家文書目録・矢木根尾長次郎文書目録 庄下村役場文書目録・大門末永孫七郎旧蔵文書目録	砺波郷土資料館	平成12年	2000	−
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第11集 東開発村方文書目録	砺波郷土資料館	平成13年	2001	−
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第12集 河邊次郎左衛門文書目録	砺波郷土資料館	平成13年	2001	−
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第13集 千光寺文書目録	砺波郷土資料館	平成14年	2002	−
有	砺波市歴史資料調査報告書　第14集 芹谷山千光寺の方丈さんたち	砺波郷土資料館	平成14年	2002	−
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第15集 野村島田辺家文書目録･苗加村方文書目録 野村島野村家文書目録・野村島河合家文書目録	砺波郷土資料館	平成15年	2003	−
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第16集 栴檀山村役場文書目録	砺波郷土資料館	平成16年	2004	−
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第17集 小幡屋津右衛門文書目録・出町第一区長文書目録	砺波郷土資料館	平成17年	2005	−
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第18集 栴檀野村役場文書目録	砺波郷土資料館	平成18年	2006	−
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第19集 五ヶ村村方文書目録	砺波郷土資料館	平成19年	2007	−
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第20集 中野村文書目録・飛騨屋村文書目録	砺波郷土資料館	平成21年	2009	−
〃	砺波市歴史資料調査報告書　第21集 高波村役場文書目録・飛騨屋村文書目録	砺波郷土資料館	平成24年	2012	−
他	砺波市歴史資料調査報告書　第22集 高波の地図帳・若い人に伝えたい圃場整備事業 高波土地改良目録	砺波郷土資料館	平成28年	2016	−
有	砺波市歴史資料調査報告書　第23集 麻問屋　神田家文書目録	砺波郷土資料館	令和2年	2020	−
他	砺波市歴史資料調査報告書　第２４集 佐伯安一資料目録	砺波郷土資料館	令和5年	2023	−
埋	東海北陸自動車道関連埋蔵文化財包蔵地分布調査報告書	富山県教育委員会	昭和58年	1983	−
埋	久泉遺跡現地説明会資料	砺波市教育委員会	平成17年	2005	太田
有	旧中島家住宅移築修理工事報告書	砺波市教育委員会	昭和52年	1977	−
文	砺波市散村景観保全・活用調査報告書	砺波市教育委員会	平成21年	2009	

■各地区の郷土史

種類	書籍名等	編集者・発行者等	発刊年	西暦	地区
他	出町の「あゆみ」	出町史編纂委員會　杉下　甚二郎	昭和24年	1949	出町
〃	神島のれきし	神島のれきし編纂委員会	平成19年	2007	出町
〃	あゆみ	三島町町内会五十周年記念誌編集委員会	平成9年	1997	出町
〃	庄下村史誌	庄下村史誌編纂委員会	昭和54年	1979	庄下

※種類　有…有形文化財　無…無形文化財　民…民俗文化財　記…記念物　文…文化的景観　埋…埋蔵文化財
他…その他

〃	鷹栖村史	鷹栖公民館　中明　宗平	昭和 37 年	1962	鷹栖
〃	砺波市若林村史	野原勇蔵	昭和 39 年	1964	若林
〃	砺波市　杉木のあゆみ	杉木歴史編集委員会	平成 30 年	2018	林
〃	太田村史	太田村史刊行委員会	平成 3 年	1991	太田
〃	郷土史研究（太田村）	太田尋常小学校	昭和 10 年	1935	太田
〃	般若郷史蹟名勝案内図	般若郷史学会	昭和 28 年	1953	般若
〃	わが郷安川　第 1 輯	安川村史編纂委員会	平成 17 年	2005	般若
〃	わが郷安川　第 2 輯	安川村史編纂委員会	平成 18 年	2006	般若
〃	わが郷安川　第 3 輯	安川村史編纂委員会	平成 19 年	2007	般若
〃	東般若ふるさと史誌	高畠順	平成 14 年	2002	東般若
〃	栴檀山村史	栴檀山村史編集部	昭和 51 年	1976	栴檀山
〃	東山見村史料	－	昭和 21 年	1946	東山見
〃	続出町のあゆみ　開町三百五十年記念	続出町のあゆみ編集委員会	平成 20 年	2008	出町
〃	春日町のあゆみ	春日町町内会	平成元年	1989	出町
〃	鷹栖出三百年の歩み	砺波市鷹栖出公民館	昭和 60 年	1985	出町
〃	深江・上町・末広町　五百年のあゆみ	大島勝太郎	昭和 57 年	1982	出町
〃	花園町 40 周年記念誌	花園町町内会	平成 17 年	2005	出町
〃	庄下村郷土誌	庄下尋常小学校	大正 4 年	1915	庄下
〃	中野村史	中野村史刊行委員会	平成 13 年	2001	中野
他	中野村郷土誌	中野尋常小学校	大正 4 年	1915	中野
〃	中野村史	藤田培	昭和 8 年	1933	中野
〃	五鹿屋村史料	－	大正 4 年	1915	五鹿屋
〃	九本杉部落史	九本杉常会	平成 7 年	1995	東野尻
〃	むらの歩み　その一	東野尻歴史懇談会	平成 12 年	2000	東野尻
〃	むらの歩み　その二	東野尻歴史懇談会	平成 20 年	2008	東野尻
〃	むらの歩み　その三	東野尻歴史懇談会	平成２８年	2016	東野尻
〃	むらの歩み　その四	東野尻歴史懇談会	平成 31 年	2019	東野尻
〃	むらの歩み　その五	東野尻歴史懇談会	令和 5 年	2023	東野尻
〃	二十五周年を迎えて　三十五周年記念誌	九本杉部落	昭和 54 年	1979	東野尻
〃	東野尻村史	東野尻教育会	昭和 2 年	1927	東野尻
〃	鷹栖第二区　－区制五〇年のあゆみ－	鷹栖第二区	平成 4 年	1992	鷹栖
〃	鷹栖の歴史　戦後六十年の歩み	鷹栖村史編纂委員会編	平成 20 年	2008	鷹栖
〃	狐島村五百年史 一	狐島村	昭和 36 年	1961	若林
〃	狐島村五百年史 二	狐島村	昭和 36 年	1961	若林
〃	狐島村五百年史 三	狐島村	昭和 36 年	1961	若林
〃	砺波市若林村史	若林自治振興委員会	昭和 39 年	1964	若林
〃	東中村史	東中	昭和 63 年	1988	林
〃	林村自治五十年史	－	昭和 13 年	1938	林
〃	杉木のあゆみ	杉木自治会・杉木歴史編集委員会	平成 18 年	2006	林
〃	北高木村の今昔	尾栢其文	平成 11 年	1999	高波
〃	南高木部落誌	南高木部落	昭和 58 年	1983	高波
〃	十年明新又　自治会発足十周年記念事業誌	十年明新又自治会	昭和 60 年	1985	油田
〃	砺波市宮丸の歴史	松井義行・松井克栄	令和元年	2019	油田
〃	十年明誌	浅谷石太郎	昭和 48 年	1973	油田
〃	油田　中村の昔と今	今堀武雄	平成 5 年	1993	油田
〃	油田郷土史	油田尋常小学校	大正 4 年	1915	油田

〃	南般若村誌	南般若村編纂委員海	平成 2 年	1990	南般若
〃	南般若郷土史	－	大正 5 年	1916	南般若
〃	柳瀬村史	柳瀬村史編集委員会	平成 12 年	2000	柳瀬
〃	郷土誌	柳瀬村尋常小学校	大正 2 年	1913	柳瀬
〃	太田村史	太田村史編纂委員会	平成 3 年	1991	太田
〃	私たちの久泉	久泉村史編纂委員会	平成 14 年	1939	太田
〃	般若郷土誌	般若尋常小学校	大正 2 年	1913	般若
〃	八十歩の歩み	八十歩集落	平成 11 年	1999	東般若
〃	東般若郷土誌	東般若尋常小学校	大正 4 年	1915	東般若
〃	栴檀野誌	栴檀野尋常小学校	大正 4 年	1915	栴檀野
〃	庄川町示野村史	小西信三	昭和 59 年	1984	青島
〃	青島村郷土史	青島尋常小学校	大正 5 年	1916	青島
〃	謎の資史料空白時代　青島・昭和戦前戦後のできごと	庄川町青島公民館	平成 10 年	1998	青島
〃	雄神誌	雄神地区自治振興会	令和 2 年	2020	雄神
〃	雄神村誌	畑六次郎	大正 13 年	1924	雄神
〃	古上野村立て 400 年記念誌	村立て 400 年祭実行委員会	平成３０年	2018	種田
〃	種田村史	種田尋常小学校	大正 7 年	1918	種田

■指定無形民俗文化財と保存団体

種類	保存団体	文化財名称	指定年月日		
民	砺波子供歌舞伎曳山振興会	出町子供歌舞伎曳山	平 成 6 年 2 月 24 日（県指定）		
〃	五ヶ種チョンガレ踊り保存会	五ヶ種チョンガレ踊り	昭 和 62 年 3 月 30 日（市指定）		

■未指定の郷土芸能と保存団体

種類	保存団体	文化財名称	備考		
民	えんじゃら節保存会	えんじゃら節			
〃	水舞流越中八幡太鼓保存会	水舞流越中八幡太鼓			
〃	越中いさみ太鼓保存会	越中いさみ太鼓	昭和 27 年発足		
民	砺波市民謡民舞協会	となみ散居節			
〃	太郎丸獅子方若連中・太郎丸獅子保存会	太郎丸（上村）の獅子			
〃	神島獅子方若連中	神島の獅子			
〃	深江獅子舞保存会	深江の獅子			
〃	大門立志協会	大門の獅子			
〃	矢木獅子方若連中	矢木の獅子			
〃	坪内獅子方若連中	坪内の獅子			
〃	宮村獅子舞保存会	宮村の獅子			
〃	中野上村獅子方若連中	中野（上村）の獅子			
〃	中野下村獅子方若連中	中野（下村）の獅子			
〃	新明獅子方若連中	新明の獅子			
〃	上村研成会	五郎丸（上村）の獅子			
〃	鹿島獅子方若連中	鹿島の獅子			
〃	荒高屋獅子方	荒高屋の獅子			
〃	苗加西方獅子舞保存会	苗加（西部）の獅子			
〃	苗加東方獅子舞保存会	苗加（東部）の獅子			
〃	野村島獅子方若連中	野村島の獅子			
〃	鷹栖東部獅子方若連中	鷹栖（東部）の獅子			

〃	鷹栖（宮木嶋）獅子方若連中	鷹栖（宮木嶋））の獅子			
〃	狐島東獅子舞保存会	狐島（東）の獅子			
〃	狐島西獅子舞保存会	狐島（西）の獅子			
〃	西中獅子舞保存会	西中の獅子			
〃	下中上村獅子方保存会	下中の獅子			
〃	小杉獅子方保存会	小杉の獅子			
〃	小島獅子舞保存会	小島の獅子			
〃	東中魁星会	東中の獅子			
〃	林獅子方若連中（林興会）	林の獅子			
〃	北高木獅子方若連中	北高木の獅子			
〃	東宮森獅子舞保存会	東宮森の獅子			
〃	江波獅子舞保存会	江波の獅子			
〃	坪北獅子方若連中	坪北の獅子			
〃	中村獅子方保存会	油田中村の獅子			
〃	木下獅子方若連中	木下の獅子			
〃	三郎丸獅子方会	三郎丸の獅子			
〃	千代獅子方保存会	千代の獅子			
〃	石丸獅子方保存会	石丸の獅子			
〃	秋南獅子方若連中	秋元（上村・南）の獅子			
〃	秋北獅子方若連中	秋元（下村・北）の獅子			
〃	千保獅子方若連中	千保の獅子			
〃	大窪獅子方	大窪の獅子			
〃	東石丸北部獅子方若連中	東石丸（北部）の獅子			
〃	東石丸南部獅子方若連中	東石丸（南部）の獅子			
〃	柳瀬獅子の会	柳瀬の獅子			
〃	東開発獅子舞保存会	東開発の獅子			
〃	下中条獅子方若連中	下中条の獅子			
〃	太田獅子舞保存会	太田の獅子			
〃	祖泉交友会	祖泉の獅子			
〃	久泉協友会	久泉の獅子			
〃	安川獅子倶楽部	安川の獅子			
〃	福山青年会	福山の獅子			
〃	頼成上村獅子方若連中	頼成（上村）の獅子			
〃	頼成下村獅子方若連中	頼成（下村）の獅子			
〃	徳万獅子方若連中	徳万の獅子			
〃	三合新獅子方若連中	三合新・三合・徳万新の獅子			
〃	東保獅子方青年会	東保の獅子			
〃	防村獅子方保存会	防村の獅子			
〃	宮森下村獅子方保存会	宮森（下村）の獅子			
〃	権正寺獅子方保存会	権正寺の獅子			
〃	福岡獅子方若連中	福岡の獅子			
〃	宮森新・宮新青年会	宮森新・宮森の獅子			
〃	増山獅子青年団	増山の獅子			
〃	上和田青年会	上和田の獅子			
〃	芹谷獅子方若連中	芹谷の獅子			
〃	五谷青年会	五谷の獅子			

〃	栃上獅子保存会	栃上の獅子			
〃	東別所青年会	東別所の獅子			
〃	中尾獅子方若連中	中尾			
〃	湯山獅子方若連中	庄川町湯山の獅子			
〃	湯山獅子方若連中	庄川町湯谷の獅子			
〃	金屋青年会	庄川町金屋の獅子			
〃	青島青年信義会	庄川町青島（上村）の獅子			
〃	青島青年至誠会	庄川町青島（下村）の獅子			
〃	庄青年会	庄の獅子			
〃	三谷獅子方若連中	三谷の獅子			
〃	金剛寺獅子方若連中	庄　金剛寺の獅子			
〃	天正獅子方若連中	庄川町天正の獅子			
〃	五ケ獅子保存会	庄川町五ケの獅子			
〃	ねんごろ会	庄川町古上野の獅子			
〃	高儀新・筏獅子舞保存会	庄川町高儀新・筏の獅子			

2　文化財の調査の課題

これまでの文化財に関する調査状況を整理すると、建造物については把握調査を実施していません。仏像や狛犬については、これまで市内を対象とした調査を実施していますが、仏像については全域を網羅しておらず、狛犬については神殿狛犬に限ったもので参道狛犬の調査を実施していないことから、把握調査が必要です。また、本市では獅子舞が数多く行われていますが、総合的な調査が行われておらず、保存団体をある程度把握しているものの、詳細な祭りの内容の把握や記録保存は行われていません。郷土料理については、これまで市域を対象とした調査は行われておらず、把握できていません。

神殿狛犬

獅子舞

本市には、重要有形民俗文化財「砺波の生活・生産用具」をはじめとした民具資料が多量に保管されていますが、記録カードを作成しているものの、系統立てて民具を整理した調査は行われていません。遺跡については、７か年を要して詳細分布調査を行っていますが、さらに調査が必要です。樹木・社叢については、これまで詳細な調査は行われておらず、どのような樹木・社叢があるのか把握できていません。

民具資料

樹木・社叢

■ 文化財調査状況一覧　（○：概ね調査済　△：さらに調査が必要　×：未調査　－：該当なし）

建造物	美術工芸品	無形文化財	民俗文化財	遺跡（史跡）	名勝地（名勝）	動物・植物・地質鉱物（天然記念物）	文化的景観	伝統的建造物群	埋蔵文化財	文化財の保存技術	その他（地名・方言・音など）
△	△	△	△	△	×	△	○	－	△	－	△

第５章　文化財の保存・活用に関する目標

１　基本理念

本市の歴史文化の特性、文化財の保存・活用の現状を踏まえ、次に掲げる基本理念を実現するため、本市の文化財の保存・活用に関して、基本方針に基づいた総合的に取り組みを行っていきます。

(1) 基本理念

散りばめられた文化財が咲き誇るまちをつくろう

【基本理念に込めた思い】

数万年の歴史をかけて河川の堆積によってつくられた砺波平野では、
先人が暴れ川とも称される庄川の氾濫と闘いながら、
はるか昔から米作りを行いながら、暮らし、文化を築いてきました。
平野には碁石を散りばめたような散村（散居村）という集落ができ、
畑ではチューリップの球根栽培が盛んに行われています。
そのものがたりを伝える歴史文化資源が、私たちのまわりに溢れています。
あたかも散りばめられた宝石のようです。
点在する文化財の保存と継承を包括的に行い、
知恵と工夫によって文化財を活用することによって
その魅力が咲き誇り、新しいまちづくりのストーリーを紡いでいきます。

(2) 基本方針

基本理念：散りばめられた文化財が咲き誇るまちをつくろう

「価値をみいだす」ための方針

歴史文化資源の継続的な調査・研究を推進するとともに、適切な評価・保存・管理・継承に取り組みます。

「魅力をひきだす」ための方針

歴史文化資源を観光や産業に活用し、地域活性化を目指します。また、情報発信を積極的に行うとともに、文化財の魅力を引き出す活用を推進します。

「物語をひきつぐ」ための方針

文化財を守り・語る人材の育成を行います。また、文化財を取り巻く組織や体制づくりの強化に取り組むとともに、学校教育との連携を図ります。

第６章　文化財の保存・活用に関する課題・方針

１　文化財の保存・活用に関する課題

(1)「価値をみいだす」ための課題

課題１：調査・研究に関する課題

〇各種調査による文化財の把握

これまでの歴史文化資源に関する調査状況を整理すると、建造物についてはこれまで悉皆調査を実施していないことから、把握できていないものがある可能性があります。

仏像や狛犬については、これまで市内を対象とした調査を実施していますが、仏像については全域を網羅しておらず、狛犬については神殿狛犬に限ったもので参道狛犬の調査を実施していないことから、現状調査が必要です。また、本市では獅子舞が数多く行われていますが、総合的な調査が行われておらず、保存団体をある程度把握しているものの、詳細な祭りの内容の把握や記録保存は行われていません。郷土料理については、市民アンケートで将来に残したい文化財との回答が多いものの、これまで市域を対象とした調査は行われておらず、どのような料理がどの地域に分布しているのか把握できていません。

本市には、重要有形民俗文化財「砺波の生活・生産用具」をはじめとした民具資料が多量に保管されていますが、記録カードを作成しているものの、系統立てて民具を整理した調査は行われていません。遺跡については、７か年を要して詳細分布調査を行っていますが、さらに調査が必要です。樹木・社叢については、これまで詳細な調査は行われておらず、市内の個人宅や寺社などにどのような樹木・社叢があるのか把握できていません。

課題２：文化財の適切な評価に関する課題

〇文化財に対する評価・位置づけ

【現状】市内にはすでに指定や登録を受けている文化財がありますが、未指定文化財も数多く存在しています。【課題】それらの未指定文化財は、適切な調査を行った上で、正しく評価し、しかるべき位置づけを行う必要があります。

〇文化財の認知度向上

指定等文化財や未指定文化財の中には、地域で大切にされているものの、認知度が低いものがあります。文化財を将来に継承するためにも認知度の向上を図る必要があります。

課題３：保存・管理に関する課題

〇保存・管理の環境整備

増山城跡は平成 21 年に国指定史跡、砺波の生活・生産用具は平成 29 年に国重要有形民俗文化財となっていますが、その環境整備は途上にあります。前者は、保存管理計画が策定されているものの、長期的展望にもとづいた計画的な整備が完了しておらず、史跡整備が不十分です。後者は、大量の民具で構成されており、収蔵環境を徐々に整えていく必要があるとともに、将来的な活用を見据えた、地域住民や活用団体との連携が必要です。

〇景観の保全

市民アンケートでは、散居村（散村）の集落景観を未来に残したいと思う市民が多いことがわかりました。本市では、砺波市景観まちづくり条例を制定し、景観の保全に努めていますが、個性豊かで魅力あるまちとなるよう継続していく必要があります。

課題４：防災・防犯に関する課題

地域の貴重な歴史文化資源を守るためには、防災・防犯の対策や、被災した際の対応が不可欠です。現在、文化財の盗難や損傷等への防犯対策が不十分であり、文化財所有者に防犯意識が十分に浸透していないのが現状です。また、自動火災報知設備などが未整備の文化財があります。防災・防犯に関する課題・方針・措置については、第９章で記載します。

(2)「魅力をひきだす」ための課題

課題５：地域活性化に関する課題

〇観光との連携

市内の酒造会社では文化財建造物を活用した産業観光を日常的に展開しており、県内外をはじめ海外からも多くの観光客が訪れています。しかし、文化財行政との連携は希薄です。また、増山城跡には県内外から訪客がありますが、本市における観光面での扱いがほとんどありません。このことから、観光資源としての文化財の活用は不十分といえます。

〇食に関する取組み

市内の郷土料理である「よごし」や、特産である大門素麺は、文化庁が推進する「100 年フード」に選定されています。これまで簡単なレシピなどを作成したことはありますが、郷土料理を活用した取組みについては不十分といえます。

課題６：情報発信に関する課題

本市では、デジタルミュージアム「砺波正倉」やデジタルコンテンツ「庄川ジオさんぽ」で指定等文化財を紹介しています。しかし、市民アンケートでは、「文化財を大切に思うが身近に感じない」という回答が若い世代を中心に多く寄せられました。今後、より多くの人に魅力が伝わるように、わかりやすい情報提供に努める必要があります。

課題７：魅力をひきだす活用に関する課題

〇イベント機会の提供

市民アンケートでは、文化財に接する機会は旅行先が圧倒的に多く、日常生活で接する機会が少ない傾向にあることがわかりました。身近に文化財があるにも関わらず、そのような傾向を示すのは、機会の提供が少ないことが要因として挙げられます。市民が文化財に直接接するイベントを企画し、より積極的な活用を進めることが求められます。

〇活用の推進

イベントのような行事だけでは、参加者が限られます。より多くの市民に向けて、文化財の魅力を発信するため、講座の開催や教材の開発などさまざまな普及啓発を行い、市民の方にア

プローチする必要があります。

課題８：文化施設に関する課題

○ ICT を活用した展示

文化財を展示する文化施設は、できるだけわかりやすくその魅力を伝える必要がありますが、なかには何年も展示を更新していない施設があります。近年、ICT 技術の進展によって博物館の展示にも取り入れられていることから、文化財の魅力を伝えるために本市でも積極的に導入する必要があります。

○連携企画展の推進

本市では、かつて複数館が連携して平成 22 年の「真宗の風土展」や平成 26 年の「千光寺展」を開催し好評を博しましたが、現在文化施設では単独で企画展や特別展などを開催している状況です。複数館が手を組むことで広域的かつ効果的に発信ができることから、文化施設間で連携することが求められています。

(3)「物語をひきつぐ」ための課題

課題９：人材育成に関する課題

○伝統の継承、担い手の育成

本市には全国的にも珍しい出町子供歌舞伎曳山をはじめとした伝統文化･芸能がありますが、担い手が不足しており、その継承が危ぶまれています。地域の伝統文化・芸能を後世の貴重な文化遺産として継承するため、指導者や担い手の育成が求められています。

○語り部の育成

文化財の魅力を伝えるには、そのストーリーを伝える語り部の存在が不可欠です。行政だけでなく、地域住民や保存団体などがその役割としてふさわしいのですが、語り部として活動できる人が少ないのが現状です。一方で、増山城跡には曲輪の会というガイド団体があり、日常的に個人や団体を受け入れていますが、そのほかの文化財には語り部がいません。このことから、文化財の語り部の育成が求められています。

課題 10：組織・体制づくりに関する課題

文化財関連団体や地域の人材が連携したり、情報交換したりする機会が少ないのが現状です。有益な情報や問題などを共有することを目的として、文化財関連団体や地域の人材が連携するためのプラットフォームの設置が求められています。

課題 11：学校教育との連携に関する課題

本市の小学生は、「ふるさと「砺波」探訪事業」として史跡や博物館を訪れて学習していますが、郷土学習が不十分です。学校との連携をさらに深め、小学校および中学校社会科副読本への情報提供や出前講座などを通して、歴史文化資源の魅力を伝えることが求められています。

2　文化財の保存・活用に関する方針

(1)「価値をみいだす」ための方針

方針１：文化財の調査・研究の推進

〇各種調査による文化財の把握の推進

歴史文化資源を把握することは、基礎的な作業の一つです。建造物については、悉皆調査を実施し、これまで把握できていない建造物の掘り起こしに努めます。仏像は市内全域を網羅した調査を行い、狛犬については参道狛犬の調査を行います。また、本市では獅子舞が数多く行われていますが、詳細な祭りの内容の把握や記録保存を主とした総合調査を行います。郷土料理については、どのような料理がどの地域に分布しているのか把握に努めます。

重要有形民俗文化財「砺波の生活・生産用具」について、系統立てた整理を行った上で、調査に努めます。遺跡については、中世城館や荘園関連遺跡などテーマ別に調査を実施します。樹木・社叢については、詳細な調査を行います。

方針２：文化財に対する適切な評価

〇文化財に対する評価・位置づけの推進

未指定文化財については、調査によってその価値が明らかになった場合は、法令に基づく指定等を推進し、文化財の保護に努めます。

〇文化財の認知度向上

指定等文化財や未指定文化財について、将来に継承するためにも認知度の向上を図る必要があるため、砺波市登録ふるさと文化財への登録を推進します。

方針３：保存・管理の推進

〇保存・管理の環境整備の推進

増山城跡については、越中の覇権形成に重要な役割を果たした城郭であり、北陸を代表する城郭遺構であるため、長期的展望にもとづく計画的な史跡整備を進めます。

砺波の生活・生産用具については、収蔵環境を整備し、将来的な活用を見据え、地域住民や活用団体との連携を図っていきます。

〇景観の保全の推進

砺波市景観まちづくり条例を制定し、景観の保全に努めていますが、個性豊かで魅力あるまちとなるよう継続していきます。

(2)「魅力をひきだす」ための方針

方針４：地域活性化の推進

〇観光との連携

市内の酒造会社では文化財建造物を活用した産業観光を日常的に展開しており、県内外をはじめ海外からも多くの観光客が訪れています。同じく、増山城跡には県内外から訪客がありま

す。観光や産業への文化財の活用や、公民連携による文化財の活用を進め、地域活性化を図ります。

〇食に関する取組み

市内の郷土料理である「よごし」や、特産である大門素麺は、文化庁が推進する「100 年フード」に選定されています。食文化の魅力を広め、地域活性化につなげます。

方針５：情報発信の推進

デジタルミュージアム「砺波正倉」やデジタルコンテンツ「庄川ジオさんぽ」で指定等文化財を紹介していますが、より多くの人に魅力が伝わるように、SNS の利用をはじめとしたわかりやすい情報提供に努めます。また、図書館との連携を進めるとともに、ウェブ上に文化財情報を集約したデジタルプラットフォームを作成します。

方針６：魅力をひきだす活用の推進

〇イベント機会の提供の推進

埋蔵文化財や民具に触れることのできるイベントを企画し、身近な文化財に接する機会を積極的に提供します。

〇活用の推進

イベントのような行事だけでは、参加者が限られるため、より多くの市民に向けて、文化財の魅力を発信するため、講座の開催や教材の開発などさまざまな普及啓発を行い、市民の方にアプローチします。

方針７：文化施設の ICT 活用や企画連携の推進

〇 ICT を活用した展示

歴史文化資源の魅力をわかりやすく伝えるため、博物館などの文化施設の展示に ICT 技術を積極的に導入します。

〇連携企画展の推進

広域的かつ効果的に発信するとともに異なる分野が手を組むことで新たな知見が得られるため、文化施設間で連携した企画展や特別展の開催を推進します。

(3)「物語をひきつぐ」ための方針

方針８：人材育成の推進

〇伝統の継承、担い手の育成

全国的にも珍しい出町子供歌舞伎曳山をはじめとした、地域の伝統文化・芸能を後世の貴重な文化遺産として継承するため、指導者や担い手の育成を推進します。

〇語り部の育成

文化財の魅力を伝える語り部として、ガイドやボランティア団体の育成を推進します。また、ボランティア団体の育成を通して史跡の保全活動にも努めます。

方針９：組織・体制づくりの推進

地域の文化財を表示したマップの作成を通して情報を集約するとともに、文化財関連団体や地域の人材の連携や情報交換の場としてのプラットフォームを設置します。

方針 10：学校教育との連携の推進

本市の小学生は、「ふるさと「砺波」探訪事業」として史跡や博物館を訪れて学習していますが、郷土学習の充実が求められていることから、学校との連携をさらに深め、小学校および中学校社会科副読本への情報提供や出前講座などを通して、歴史文化資源の魅力を伝えます。

第７章　文化財の保存・活用に関する措置

本市における文化財の保存・活用に係る課題と基本方針を踏まえ、地域計画の計画期間に実施する措置を次のとおり設定し、基本理念「**散りばめられた文化財が咲き誇るまちをつくる**」の実現を目指します。

措置のなかで、市民アンケートの結果を踏まえ、保存、管理、活用、普及、継承を推進するにあたり、特に重点を置いて実施すべき措置を重点事業とします。

重点事業

事業の実施にあたっては、市費、県費、国費（文化庁補助金等）を有効に活用するほか、民間等の資金の活用を検討します。

取組主体について、次のとおり区分します。

行政　…本市の文化財担当課（生涯学習・スポーツ課）、庁内関係課、近隣自治体等

専門　…博物館、地域の有識者、大学の専門機関等

団体　…民間活動団体、各種団体、協議会、企業等

市民　…砺波市民

なお、関連文化財と文化財保存活用区域を設定するため、関連文化財群や文化財保存活用区域に関連が深い措置については、各方針に対する措置の欄ではなく、第８章に記載します。

(1)「価値をみいだす」ための措置

文化財の調査・研究、文化財に対する適切な評価、保存・管理を推進することにより、今まで大切に受け継がれてきた歴史を掘り起こし、その価値を見出すことに努めます。

方針１：文化財の調査・研究の推進

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
1	**建造物の状況調査** 建造物に関する状況把握をするために調査を実施する。	新規	行政 専門												
2	**仏像調査** 仏像に関する状況把握をするために調査を実施する。	継続	〃												
3	**狛犬調査** 参道狛犬に関する状況把握をするために調査を実施し、神殿狛犬と比較を行う。	〃	〃												
4	**獅子舞調査の継続** 獅子舞に関する状況把握をするために調査を実施する。	新規	〃												
5	**郷土料理調査** 郷土料理に関する状況把握をするために調査を実施する。	〃	〃												
6	**民具資料の調査** チューリップ栽培具などの民具に関する状況把握をするために調査を実施する。	〃	〃												

7	**埋蔵文化財調査** 埋蔵文化財に関する状況把握をするために調査を実施する。	継続	行政 専門	→
8	**樹木・社叢調査** 樹木・社叢に関する状況把握をするために調査を実施する。	〃	〃	→

方針２：文化財に対する適切な評価

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
9	**文化財保護審議会の開催** 専門家で構成する文化財保護審議会を開催し、文化財の保護や評価に努める。	継続	行政 専門												→
10	**文化財の指定等の推進** 文化財を指定・登録等を行い、適切な評価に努める。	継続	〃												→
11	**市登録制度の運用** 新たに創設した登録制度を運用し、文化財の登録を進める。	継続	〃												→

方針３：保存・管理の推進

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
12	**増山城跡史跡整備** 国指定史跡である増山城跡を適切に保存し活用するため、史跡整備を推進する。	〃	〃						→						
13	**砺波の生活・生産用具環境整備** 国重要有形民俗文化財を適切に保存し活用するため、環境整備を推進する。	〃	〃												→
14	**景観まちづくりの推進** 魅力ある散居景観を次世代に継承するとともに活用し、まちづくりを進める。	〃	〃												→

(2)「魅力をひきだす」ための措置

歴史文化資源を活用した地域活性化、情報発信、歴史文化資源の活用、整備・改修による文化施設の拠点化を推進することで、砺波市の文化財の魅力をひきだしていきます。

方針４：地域活性化の推進

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
19	**文化財観光資源化推進** 文化財を観光資源として見直し、観光への文化財活用を推進します。	新規	行政 団体												→
20	**旧金岡家住宅の民間活用推進** 公民連携による文化財の活用を進め、地域活性化を図ります。	〃	行政 団体、市民												→
21	**指定文化財看板の設置・修繕** 市民や観光で訪れた方に向けて、指定文化財看板の設置や修繕を進めます。	継続	行政 市民												→

22	産業観光ブラッシュアップ 重点事業 民間事業者と連携し、産業観光での文化財活用を推進します。	新規	行政 団体	→
23	「100 年フード」推進 文化庁選定の「100 年フード」になっている「よごし」・「大門素麺」の魅力を発信し、地域活性化を図ります。	〃	行政 団体	→

方針５：情報発信の推進

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
24	「砺波正倉」コンテンツ拡充 デジタルミュージアムにコンテンツを追加し、情報発信に努めます。	継続	行政 市民	→											
25	「庄川ジオさんぽ」コンテンツ拡充 デジタルコンテンツに画像や各種情報を追加し、情報発信に努めます。	継続	行政 市民	→											
26	砺波図書館「となみっけ」との連携 蔵書検索システムとデジタルミュージアムを連携させ、利用者の検索性を高めます。	〃	〃	→											
27	デジタルプラットフォームの設置 インターネット上に文化財情報を集約したデジタルプラットフォームを作成します。	新規	〃			→									
28	SNS による情報発信強化 より多くの方に文化財の情報が届くよう、SNS を活用した発信に努めます。	〃	〃	→											

方針６：文化財の活用の推進

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
29	埋蔵文化財センターオープンデーの開催 埋蔵文化財に触れる機会を増やすため、小学生をターゲットにしたイベントを開催します。	継続	行政 市民	→											
30	民具デーの開催 民具に触れる機会を増やすため、イベントを開催します。	継続	〃	→											
31	民具資料の展示・普及 民具資料の魅力を広めるため、積極的に公開するとともに AR 技術などを活用した展示を行います。	〃	〃	→											
32	埋蔵文化財の体験学習の実施 埋蔵文化財の魅力に触れる機会を提供するため、体験学習を日常的に受け入れます。	〃	〃	→											
33	埋蔵文化財の教材作成 埋蔵文化財の理解を促進するため、幼児から小学生向けの体験教材の制作を進めます。	〃	〃	→											

34	**増山城跡普及啓発** 国指定史跡・増山城跡の魅力を広めるため、積極的な活用を推進します。	継続	行政 市民	→
35	**増山城戦国祭りの開催** 増山城跡の活用の一環として、地元と協働でイベントを開催します。	継続	行政 団体 市民	→
36	**獅子舞フォーラム／獅子舞展の開催** 獅子舞を通した地域文化の理解を深めるため、フォーラムや企画展を開催します。	新規	行政 団体 市民	→
37	**獅子舞 AR コンテンツの制作** 重点事業 獅子舞の特徴を知ってもらうため、AR コンテンツの制作を進めます。	新規	行政 市民	→

方針７：整備・改修による文化施設の拠点化の推進

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
38	**民具 AR コンテンツの制作** 民具の理解を促進するため、AR コンテンツの制作を進めます。	継続	行政	→											
39	**文化施設連携企画展の開催** 重点事業 郷土資料館、美術館、散居村ミュージアムなど文化施設が連携し、企画展を開催します。	新規	行政 団体	→											
40	**クラウドファウンディングの推進** 文化施設の拠点化を進めるため、クラウドファウンディングを活用した整備・改修を行います。	新規	行政 市民	→											

(3)「物語をひきつぐ」ための措置

人材育成、組織・体制づくり、学校教育との連携を推進することにより、砺波市の歴史文化資源がもつ物語をひきつぐことに努めます。

方針８：人材育成の推進

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
41	**郷土芸能伝承指導者の養成** 伝統文化・芸能を後世に継承するため、指導者や担い手の育成を支援します。	新規	行政	→											
42	**指定文化財維持管理の実施** 指定文化財の維持管理のための人材育成に資するため、支援を行います。	〃	〃	→											
43	**市民大学の開催** 文化財の価値を伝える人材を育成するため、市民大学を開催します。	継続	行政 市民	→											
44	**となみ散居村学習講座の開催** 散居村の歴史や文化を引き継ぐため、幅広い内容で構成された学習講座を開催します。	〃	〃	→											
45	**曲輪の会ガイドの養成** 増山城跡の価値を伝える語り部を養成します。	〃	行政 団体	→											

46	文化財ガイドの養成 文化財の魅力を広く伝えるための語り部を養成します。	〃	〃	→
47	三世代交流草刈りの実施 増山城跡の保全を図るとともに地元住民の愛着を醸成するため、三世代が参加する草刈りを定期的に実施します。	〃	行政 団体、市民	→
48	三世代交流文化財イベントの実施 文化財を後世に継承するため、三世代が参加できるイベントを開催します。	〃	〃	→

方針９：組織・体制づくりの推進

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
49	地域文化財マップの作成 重点事業 文化財を地域で守る組織づくりの一環として、公民館を主体として地域文化財マップを作成します。	新規	行政 団体	→											
50	庄川流域見学会の開催 庄川を中心とした文化財を継承する体制づくりの一環として、庄川流域見学会を開催します。	継続	行政 団体 市民	→											
51	人材・団体プラットフォームの創設 文化財に関わる人材や団体の情報共有を図るため、プラットフォームを創設します。	新規	行政 団体 市民	→											

方針 10：学校教育との連携の推進

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
52	専門職員の配置 学校教育との連携を図るため、行政に専門知識を有する職員を配置します。	新規	行政	→											
53	専門職員のスキルアップ 学校教育への貢献度を高めるため、専門職員のスキルアップを図ります。	〃	〃	→											
54	砺波散村地域学習講座の開催 小学校・中学校・高校と連携し、散村地域を深く理解するための学習講座を開催します。	継続	〃	→											
55	行政出前講座の開催 学校教育と連携するため、行政出前講座にて授業を開催します。	〃	〃	→											
56	社会科副読本の改訂 学校教育で地域の歴史や文化を取り上げてもらうため、社会科副読本の制作に積極的に関わります。	〃	〃	→											

第８章　関連文化財群と文化財保存活用区域

１　関連文化財群

(1) 定義と目的

関連文化財群とは、指定・未指定に関わらず多種多様な有形・無形の文化財を、歴史文化に基づくストーリーによって一定のまとまりとして捉えたものです。複数の文化財を総合的・一体的に保存・活用することにより、その魅力を高めるとともに、本市の歴史文化や文化財の価値を分かりやすく市民に伝えることを目的としています。

(2) ７つの関連文化財群

Ⅰ 戦の歴史文化
　① 源平合戦と戦国争乱の舞台
Ⅱ 信仰の歴史文化
　② 布教の歴史と仏教文化
　③ 五穀豊穣を祈る祭り文化
Ⅲ 水の歴史文化
　④ 庄川の治水と用水
　⑤ 扇状地でのチューリップ栽培
Ⅳ 米の歴史文化
　⑥ 古代豪族の開墾と献物
　⑦ 散村と米作りの生活文化

(3) 関連文化財群の概要

Ⅰ 戦の歴史文化

① 源平合戦と戦国争乱の舞台

本市は、古代から数々の戦乱の舞台となりました。古くは平安時代の源平争乱時、倶利伽羅峠の合戦の前哨戦として般若野の合戦が行われ、続く鎌倉時代には承久の乱で戦いが繰り広げられました。戦国時代には北陸屈指の巨城である増山城が築かれ、各地に城・砦・館といった防御施設がつくられました。

古くは平安時代末期、治承・寿永の源平争乱のとき、倶利伽羅峠の合戦の前哨戦として般若野の合戦が行われ、平家軍と源氏が芹谷野段丘の麓で激突しました。木曽義仲率いる源氏が勝利を納め、その勢いにのって倶利伽羅峠に攻め込み、京への上洛を果たしましたが、市内の各所には、義仲軍の足跡を示す石碑や伝承が残されています。

続く鎌倉時代には、後鳥羽上皇が討幕の兵をあげた承久の乱で、幕府軍と京方軍（後鳥羽上皇方）が般若野荘で合戦を繰り広げました。戦の結果、京方軍は敗れ、勝利した幕府軍は入京

を果たしています。

戦国時代には越中三大山城に称される増山城が築かれました。また､戦国時代には在地土豪･寺院・一向一揆などによって城・砦・館といった防御施設がつくられました。

■ 構成文化財一覧

番号	文化財の名称	類型	指定等・未指定
①	増山城跡	史跡	国指定
②	隠尾城跡	史跡	市指定
③	壇城跡	史跡	市指定
④	午飯岡碑	史跡	ふるさと文化財
⑤	公卿塚（九人塚）	史跡	ふるさと文化財
⑥	伝長尾為景塚	史跡	ふるさと文化財
⑦	安川城	史跡	ふるさと文化財
⑧	宗半塚	史跡	ふるさと文化財
⑨	恩光寺跡	史跡	未指定
⑩	御館山館跡	史跡	未指定

【関連文化財群Ⅰに関する課題と方針】

増山城跡をはじめ、隠尾城跡、壇城跡、小倉の土居、安川城、千代ヶ様城などの城郭遺構は戦乱の歴史を伝える貴重な遺跡であるにもかかわらず、知名度が低いのが現状です。それらは山城が多いことから、訪れにくいところもあります。また、城郭遺構は専門的知識がないとかつての姿をイメージするのが難しくもあります。以上のことから、多くの人に知ってもらえるよう普及啓発を図っていくとともに、訪問のための環境整備が必要です。同時に最新技術を活用した普及啓発も求められています。

【関連文化財群Ⅰに関する措置】

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
57	城郭カード・武将カードの発行 城跡や関連する武将を周知するため、トレーディングカード型式のパンフレットを発行します。	継続	行政	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
58	増山陣屋の管理運営 増山城跡の発着地点や休憩場所として増山陣屋の管理運営を行います。	継続	行政 市民	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
59	増山城跡の ICT 活用 増山城跡の魅力を広めるため、ICT 技術を活用した普及啓発を行います。	継続	行政 専門団体	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

Ⅱ 信仰の歴史文化

② 布教の歴史と仏教文化

古くから人々は信仰をよりどころとし、白鳳時代には三論宗の千光寺が開かれ、奈良時代には福山窯で須恵器の瓦塔が焼かれました。鎌倉時代に新しい仏教が広まると、浄土真宗の勢力が一気に広がり「真宗王国」といわれる越中の風土が形作られました。

市内でもっとも古い信仰対象は千光寺です。白鳳時代に開かれ、はじめは三論宗でしたがの

ちに真言宗に変わり、江戸時代には加賀藩の祈祷所となりました。続く奈良時代に操業の福山窯からは、須恵器製の層塔のミニチュアである瓦塔が出土しており、このことからも仏教の浸透をうかがい知ることができます。

鎌倉時代に新しい仏教が始まると、浄土真宗の勢力が一気に広がり「真宗王国」といわれる越中の風土が形作られました。砺波地方では井波別院瑞泉寺と城端別院善徳寺を中心に教化を広めました。市内でも多くの浄土真宗寺院が存在しています。また、聖徳太子を崇拝する太子信仰も盛んで、幕末頃からは太子二歳石仏の造立が急速に行われました。

■ 構成文化財一覧

番号	文化財の名称	類型	指定等・未指定
①	木造阿弥陀如来立像（常福寺）	彫刻	国指定（重要有形文化財）
②	銅造観世音菩薩立像（千光寺）	彫刻	県指定
③	千光寺観音堂	建造物	市指定
④	木造見返阿弥陀如来立像（浄光寺）	彫刻	市指定
⑤	綽如杉	天然記念物	市指定
⑥	聖徳太子孝養像	彫刻	ふるさと文化財
⑦	狐島の太子像	彫刻	ふるさと文化財
⑧	安川野武士の太子堂	建造物	ふるさと文化財
⑨	宮森廃寺跡	史跡	ふるさと文化財
⑩	光明真言塚	史跡	未指定
⑪	宮森新経塚	史跡	未指定
⑫	太田住吉社の狛犬	彫刻	未指定

【関連文化財群Ⅱに関する課題と方針】

富山県は「真宗王国」と呼ばれるほどに浄土真宗が浸透しています。本市でも同様ですが、千光寺に代表されるように真言宗やその他の宗派も広まっています。しかし、信仰対象である仏像や神像は本尊や御神体として崇敬されているため、文化財として接する機会が少ないのが実情です。神社の本殿や拝殿に安置される神殿狛犬も同じです。

そこで、インターネット上に仏像や石仏の情報を整理し、ギャラリーのような形で公開することで誰もがアクセスできるよう努めます。また、地域で大切にされている神殿狛犬を地域巡りや文化財探訪で訪れてもらえるようマップを作成し、啓発を推進します。

【関連文化財群Ⅱに関する措置】

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
60	仏像・石仏のウェブギャラリー デジタルミュージアム上に仏像や石仏を特集したギャラリーページを開設します。	継続	行政	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
61	神殿狛犬マップの刊行 神殿狛犬の詳細調査結果をもとにマップを作成します。	新規	行政 専門団体	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

③ 五穀豊穣を祈る祭り文化

本市では、子供歌舞伎曳山、獅子舞、夜高祭り、盆踊りの「チョンガレ」や「えんじゃら」など多くの祭りが今も受け継がれ、五穀豊穣を祈る祭り文化が定着しています。これらは信仰にもとづくもので、祭りを軸とした一年のサイクルが生活のなかに根付いています。

砺波地方では獅子舞や盤持、草相撲、チョンガレなどがありますが、本市の出町では江戸時代から子供歌舞伎も盛んに上演され、今も東・中町・西町の三町が当番制で祭りを催行しています。初夏には虫送り行事として田祭りであるヨータカ（夜高）が行われ、出町・庄川・五鹿屋などでは大型の行燈が巡行されます。祭りの最終盤では行燈どうしを盛大にぶつけ合い、喧嘩祭りとしての側面もあります。また、本市では獅子舞が盛んに行われ、砺波型、婦負型、氷見型など類型がみられます。太鼓は、越中八幡太鼓やいさみ太鼓があり、今も継承に努めています。

■ 構成文化財一覧

番号	文化財の名称	類型	指定等・未指定
①	出町子供歌舞伎曳山	無形民俗文化財	県指定
②	太田金比羅祭礼幟	有形民俗文化財	市指定
③	ヨータカ	無形民俗文化財	ふるさと文化財
④	夜高行燈	無形民俗文化財	ふるさと文化財
⑤	左義長	無形民俗文化財	ふるさと文化財
⑥	浅草観音発祥伝承	伝承地	ふるさと文化財
⑦	獅子舞	無形民俗文化財	未指定
⑧	越中いさみ太鼓	無形民俗文化財	未指定
⑨	越中八幡太鼓	無形民俗文化財	未指定
⑩	厄払い鯉の放流	無形民俗文化財	未指定

【関連文化財群Ⅱに関する課題と方針】

出町子供歌舞伎や夜高祭りは全国的に珍しい祭りですが、一般的な認知度は低い状態です。また、これまで映像や写真での撮影は個人やメディアを中心に行われていることから、公的な記録保存資料が乏しい状態です。また、獅子舞は最盛期で80近くの集落で行われていましたが、継承者の不足や人口減少に伴い年々数が減っており、存続が危ぶまれています。そこで、近年祭りの価値が広まりつつあることから、観覧を主とした観光ツアー商品を開発し、伝統行事の魅力を広めることに努めます。また、記録保存を積極的に行うとともに、普及啓発に努めます。

【関連文化財群Ⅱに関する措置】

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
62	**伝統行事観光ツアー商品化** 夜高行燈などの伝統行事に特化した観光ツアーの商品化を図り、魅力の発信に努めます。	新規	行政	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
63	**出町子供歌舞伎曳山の記録保存** 富山県で唯一残る子供歌舞伎を次世代に継承するため記録保存を行います。	新規	行政 団体	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
64	**夜高祭りの記録保存** 砺波地方で盛んに行われている夜高祭りについて次世代に継承するため記録保存を行います。	新規	行政 市民	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
65	**獅子舞マップの刊行** 獅子舞の調査結果をもとに、マップを作成し普及啓発を図ります。	継続	行政 市民	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
66	**厄払い鯉の放流の民俗学的調査** 厄払い鯉の放流の調査を行い、学術的な価値づけを行います。 重点事業	新規	行政 市民	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

Ⅲ 水の歴史文化

④ 庄川の治水と用水

本市は大部分が庄川でつくられた扇状地です。庄川が運ぶ水は平野の水田を潤し、奈良時代から米作りに利用されてきました。古くから砺波は穀倉地帯として知られ、水田の多さは独特の景観が生み出しています。

庄川は飛騨からの流木や、多くの恵みをもたらす反面、水害も多く、堤防を築くなどして治水にも労力を要しました。

庄川は、江戸時代に現在の河道に固定されるまで野尻川、中村川、新又川、千保川と移り変わっていますが、支流が網の目のような川筋となって砺波平野に流れていました。それらの川は氾濫を繰り返し、人々は常に洪水の脅威と闘いながら耕作地を守ってきました。天正地震によって現在の河道に流れが変わった後、江戸時代に加賀藩が45年の歳月をかけて弁財天前に松川除とよばれる堤防を築き、川筋は一本化され洪水の危険性は少なくなりました。

奈良時代に平野の各地に荘園が作られましたが、用水の発達と密接な関係があると考えられます。扇央部の久泉遺跡では奈良時代の集落とともに幅10m以上の大溝跡が見つかり、古くから用水を掘削していたことがわかりました。その後、平野には用水網が血管のように扇状地に張り巡らされますが、洪水のたびに取水口の修復を余儀なくされることや、取入れ堰の維持管理の困難さから、昭和初期に取水口を一括管理するため用水の合口化工事を行い、ダムが完成しました。上流の五ヶ山や飛騨からの流木や、多くの恵みをもらたしました。反面、洪水など水害も多く、堤防を築くなどして治水にも苦心しました。

■ 構成文化財一覧

番号	文化財の名称	類型	指定等・未指定
①	小牧ダム	建造物	国登録
②	庄川合口堰堤	建造物	国登録
③	庄川の弁財天社	史跡	市指定
④	二万七千石用水取入口跡	史跡	市指定
⑤	牛嶽車道開通記念碑	史跡	市指定
⑥	瓜裂清水	名勝	市指定
⑦	松川除堤防と御川除地蔵	史跡	市指定
⑧	太田橋	建造物	ふるさと文化財
⑨	庄川弁財天社御開扉大祭（あがりもん）	無形民俗文化財	未指定

【関連文化財群Ⅲに関する課題と方針】

江戸時代に築かれた松川除堤防は、洪水の危険を大幅に減らしましたが、現在では新しく出来た堤防によってその役割が失われつつあります。その価値を記録するため、松川除堤防の残存状況の把握に努めます。また、庄川は西から東に遷移したと通説でいわれていますが概略図しかありません。そこで２万５千分の１の地形図に旧河道の位置と用水網を落とした図面を作成します。また、令和５年に庄川弁財天社御開扉大祭が33年ぶりに開催されましたが、映像や写真が個人撮影のものが多く公的なものが少ないことから、記録収集に努めます。

【関連文化財群Ⅲに関する措置】

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
67	松川除堤防の残存状況把握 江戸時代に造成された松川除堤防の残存状況について把握のための調査を行います。	継続	行政	→											
68	庄川東遷図・用水網図作成 重点事業 庄川の東遷を図示するとともに砺波平野の用水網図を作成します。	新規	行政 専門団体	→											
69	庄川関連資料の展示・普及啓発 庄川の水資料に関する展示や普及啓発を行います。	新規	行政	→											
70	庄川弁財天御開扉大祭の記録収集 令和5年7月に行われた33年に一度の大祭に関する記録を収集します。	新規	行政 市民	→											

⑤ 扇状地でのチューリップ栽培

本市では、大正時代から米作りの裏作としてチューリップの栽培が始まり、扇状地の土壌や気候が適していたことから切花や球根の生産量が増加するとともに、春に行われるチューリップフェアは70年以上も続き、市の代表的な観光イベントに成長しました。

本市では、大正時代から米作りの裏作として、チューリップの栽培が始まりました。チューリップの球根栽培はやがて砺波に定着し、栽培者や生産量が順調に増えましたが太平洋戦争でほぼ途絶えてしまいました。戦後に復興しましたが、GHQが砺波にある園芸試験場を廃止しよう動きがあった時､存続をかけてチューリップフェアが行われました。その後､継承されたフェアは今日では富山県を代表する春のイベントになっています。

■ 構成文化財一覧

番号	文化財の名称	類型	指定等・未指定
①	砺波の生活・生産用具	有形民俗文化財	国指定 （重要有形民俗文化財）
②	砺波の民具	有形民俗文化財	市指定
③	チューリップ	記念物	未指定

【関連文化財群Ⅲに関する課題と方針】

本市は、チューリップの球根出荷量が日本一を誇り、チューリップフェアには30万人が訪れるというまさに花のまちです。しかし、あまりにも有名であり過ぎるために、市民の多くはチューリップ栽培の方法やチューリップフェアの歴史について詳しく知りません。そこで、博物館などでチューリップ関連の資料を展示するとともに、75年以上の歴史のあるチューリップフェアの歴史年表を作成し、普及啓発に努めます。また、本市とチューリップの歩みをまとめたパンフレットを作成します。

【関連文化財群Ⅲに関する措置】

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
71	チューリップ関連資料の展示 チューリップ栽培の歴史や文化を紹介した展示を行います。	継続	行政	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
72	チューリップフェアの歴史年表・パンフレットの作成 70年以上の歴史をもつフェアの歴史年表と概要パンフレットを作成します。	新規	行政 専門団体	→	→	→	→	→	→	→					
73	チューリップ関連の史跡指定 100年以上前に栽培が始められた田畑を史跡指定を目指します。 重点事業	新規	行政 専門団体 市民	→	→	→	→	→							

Ⅳ 米の歴史文化

⑥ 古代豪族の開墾と献物

砺波地方は古くから穀倉地帯として知られますが、その起源は奈良時代の地方豪族である利波臣志留志が扇状地を開拓し、多くの米を都に献上したことに由来します。その志留志は米とともに開拓した土地を奈良東大寺に寄進し、米作りの基礎をつくりました。

奈良時代に未開地を開墾した利波臣志留志は、奈良東大寺大仏建立に際して米を寄進し、その量は全国の豪族でもっとも多かったといわれています。志留志は米どころの基礎を作った人物ともいえます。その後、志留志の開墾した土地は東大寺の荘園となり、中世には般若野荘として続きました。

■ 構成文化財一覧

番号	文化財の名称	類型	指定等・未指定
①	福山須恵器窯跡出土品	考古資料	市指定
②	福山窯跡	史跡	未指定
③	木造桂岩運芳倚坐像	彫刻	市指定
④	久泉遺跡	史跡	未指定
⑤	徳万頼成遺跡	史跡	未指定
⑥	安川天皇窯跡出土品	考古資料	未指定
⑦	宮森窯跡	史跡	未指定

【関連文化財群Ⅳに関する課題と方針】

本市は、奈良時代から穀倉地帯として知られ、現在の庄東地域周辺に東大寺領の荘園がありました。そのきっかけとなったのは利波臣志留志という一人の豪族ですが、その人物を身近に感じる市民は少数です。そこで、利波臣志留志を顕彰したマンガを活用し、小中学校に出前授業を行うなどして啓発を図ります。また、利波臣志留志に関連した史跡をまとめた足跡マップを作成し、地域の探訪イベントなどでの活用に努めます。あわせて、般若野荘をテーマとした企画展の開催を推進します。

【関連文化財群Ⅳに関する措置】

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
74	利波臣志留志マンガの活用 古代の豪族・利波臣志留志の功績をまとめたマンガの活用を推進します。	継続	行政	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
75	志留志の足跡マップの刊行 利波臣志留志に関連した名所旧跡をまとめたマップを作成します。	新規	行政 専門 団体	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
76	般若野荘をテーマとした企画展開催 中世の広大な荘園である般若野荘をテーマとした企画展を開催します。 重点事業	新規	行政 専門 団体	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

⑦ 散村と米作りの生活文化

砺波地方で行われていた米作りは、江戸時代を通して加賀藩の石高を支えました。扇状地上では川跡を開拓して耕地とし､稲作に特化するため家のまわりに水田を配することで散居村（散村）の集落がつくられました。また、人々の住まい方や年中行事もほぼすべてが米作りが中心にありました。

近世には加賀藩が堤防を築いたことで庄川が固定化され、そのおかげで氾濫原の開拓が進みました。新開した村は、米作りに特化した孤立荘宅の形態をとり、それらが集合して散村集落ができていきました。改作法など藩の政策により米の収穫量が増加し、加賀百万石の大部分は砺波郡によって支えられるまでになりました。

■ 構成文化財一覧

番号	文化財の名称	類型	指定等・未指定
①	入道家住宅	建造物	県指定
②	旧中嶋家住宅	建造物	市指定
③	芳里家住宅主屋	建造物	国登録
④	五ケ種チョンガレ踊り	無形民俗文化財	市指定
⑤	杉木新町町立願書	古文書	市指定
⑥	若鶴大正蔵	建造物	ふるさと文化財
⑦	十村安藤家の多門	建造物	ふるさと文化財
⑧	散村文化的景観	文化的景観	未指定
⑨	よごし	無形文化財	未指定
⑩	大門素麺	無形文化財	未指定

【関連文化財群Ⅳに関する課題と方針】

砺波平野の散村（散居村）は、独特の集落景観として有名ですが、その成り立ちや役割についてあまり知られていません。そこでマップを刊行するとともに、重要文化的景観への取組みを推進します。また、アズマダチやマエナガレのような伝統家屋には、広間にワクノウチ建築がみられますが、基本的な調査が行われていないため、構造調査を行います。

また、郷土料理レシピを作成し、広く発信します。

【関連文化財群Ⅳに関する措置】

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
77	**砺波平野の散村マップの刊行** 砺波平野の代表的な景観である散村（散居村）に関するマップを刊行します。	継続	行政	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
78	**郷土料理レシピの発信** よごしなど郷土料理のレシピをインターネットに掲載し、広く発信します。	新規	行政 専門	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
79	**文化的景観の普及啓発** 散村（散居村）の価値を周知するため、普及啓発を行います。	継続	行政 市民	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
80	**ワクノウチ建築の構造調査** 砺波平野の伝統的家屋に多くみられるワクノウチの状況調査を行います。	継続	行政 専門	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

2　文化財保存活用区域

文化財保存活用区域とは、文化財が特定の範囲に集積している場合に、当該文化財（群）をその周辺環境も含めて面的に保存・活用するために設定するものです。そこで、本市の歴史文化資源が特徴的に集積していること、行政による施策が図られていること、地域住民によるまちづくり活動が盛んなことを基準に、次の区域を設定しました。

(1) 庄川地域文化財保存活用区域

庄川扇状地の扇頂部に位置し、山深い五箇山と瑞泉寺の門前町である井波を結ぶ地点で、一級河川の庄川に関わりの深い区域です。庄川が峡谷を抜けて平野に出る場所で、これまで治水に多くの労力を要した一方、昭和初期に建設された２つのダムや、庄川両岸に集中する用水取水口など水関連施設があり、砺波平野における工業や農業の発展に寄与してきました。

この地域は、昭和初期に行われたダム建設で隆盛したという歴史があります。その象徴的存在として、小牧ダム（国登録有形文化財）と庄川用水合口ダム（庄川合口堰堤、国登録有形文化財）があります。小牧ダムは水力発電用、庄川用水合口ダムは庄川流域の農業用水の取入れ口を合口化するために建設されたものです。建設当時、最高級の建設資材とされたコンクリートは、左官の名工・竹内源造の鏝絵の技術によって庄川大仏や山田文作像（現在は亡失）、一本橋の欄干、木村産業株式会社の社屋などダム以外にも使用されました。

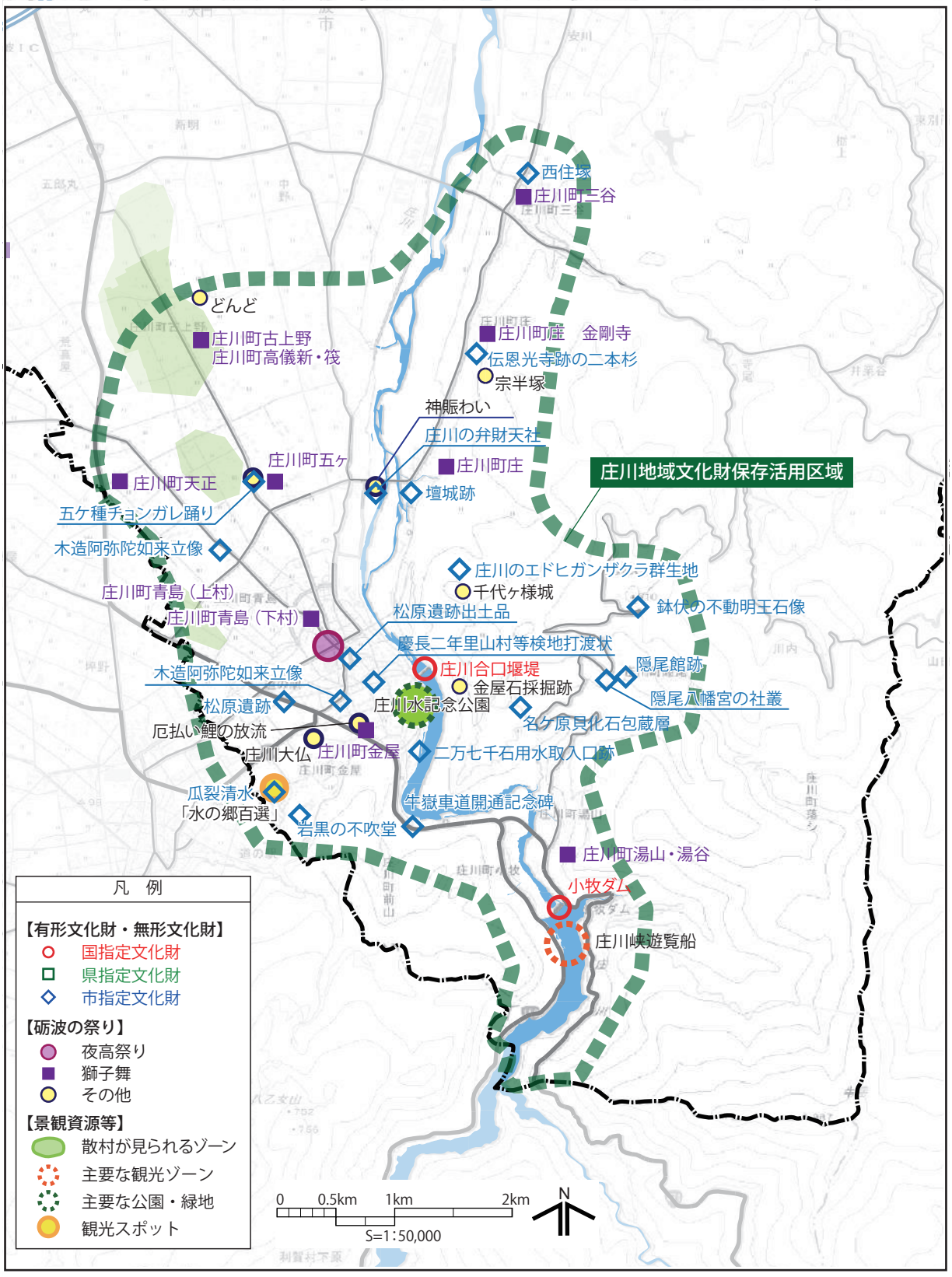
用水が合口される前、庄川沿岸には取入れ口が十数箇所ありましたが、現在も名残りを留めるものとして二万七千石用水取入口跡があります。また、庄川の歴史と関連の深いものとしては庄川の弁財天社があります。弁財天社は、現在庄地内に移転した雄神神社が元々建っていた場所で、安土桃山時代に起こった天正地震の際に氾濫した庄川の濁流に流されずに残ったといわれます。庄川流域の治水の水神として流域の人々の崇敬を集め、33 年に一度御開扉の大祭（神賑わい、あがりもん）が今も盛大に行われています。

縄文時代中期の拠点集落である松原遺跡をはじめ、瑞泉寺開基の綽如上人ゆかりの瓜裂清水や上杉謙信の進攻を逃れた南部一族ゆかりの隠尾城跡や隠尾八幡宮の社叢、慶長二年里山村検地打渡状のほか、市内では数少ない民謡である五ヶ種チョンガレ踊りがあります。

また、観光地としては毎年厄払い鯉の放流を行う庄川水記念公園や、秘境大牧温泉と連絡する庄川峡遊覧船などがあります。庄川観光祭では、砺波平野の田祭りの先陣を切って庄川夜高

区域内の主な文化財一覧

番号	文化財の名称	類型	指定等・未指定
①	庄川大仏	彫刻	ふるさと文化財
②	木村産業㈱事務所	建造物	ふるさと文化財
③	金屋石石管　附．石工道具	歴史資料	ふるさと文化財
④	金屋石採掘跡	史跡	ふるさと文化財
⑤	青島の一本橋	史跡	ふるさと文化財
⑥	中筋往来の石仏群	彫刻	ふるさと文化財
⑦	庄川観光祭	無形民俗文化財	未指定
⑧	鮎	天然記念物	未指定
⑨	庄川挽物木地	無形文化財	未指定
⑩	厄払い鯉の放流	無形民俗文化財	未指定
⑪	雄神地下工場跡	史跡	未指定
⑫	ゆず	天然記念物	未指定
⑬	金屋ねぎ	天然記念物	未指定



庄川地域文化財保存活用区域の範囲

※ この範囲は、文化財のまとまりにもとづき区域設定をしているものであり、旧庄川町の範囲を示すものではありません。

行燈が練り出されます。伝統工芸では幕末に魚津市から伝わった庄川挽物木地があります。

(2) 庄川地域文化財保存活用区域に関する課題と方針

この区域は、庄川に関わる歴史が深く、関連した文化財が多く密集しています。春にはエドヒガンザクラ、夏には夜高や五ヶ種チョンガレ、秋には獅子舞、冬には厄払い鯉の放流など四季折々に文化財に触れることができます。庄川峡遊覧船や温泉郷には季節を問わず多くの人が訪れています。しかし、文化財が豊富で観光イベントや観光地は充実している一方、それぞれの結びつきや連携が弱いところがあります。

そこで、文化財と観光を結びつける手段として、まちづくりを行う市民の協力を得ながら、ICT 技術の活用やインターネットによる情報の一元化、情報発信の強化に努めます。

(3) 庄川地域文化財保存活用区域に関する措置

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
81	ICT を活用した情報発信 庄川水記念公園に QR コードを貼付したサインを設置し、来訪客が庄川の歴史文化資源に手軽にアクセルできるようにする。	新規	行政	→											
82	庄川水資料デジタルコンテンツの拡充 ウェブ上に情報を一元的にまとめたポータルサイトを開設し、随時情報更新を行い、庄川や水資料の情報発信を行う。	新規	行政 市民	→											



庄川合口堰堤（庄川合口ダム）



小牧ダム



庄川夜高行燈



庄川大仏

第９章　文化財の保存・活用の推進体制

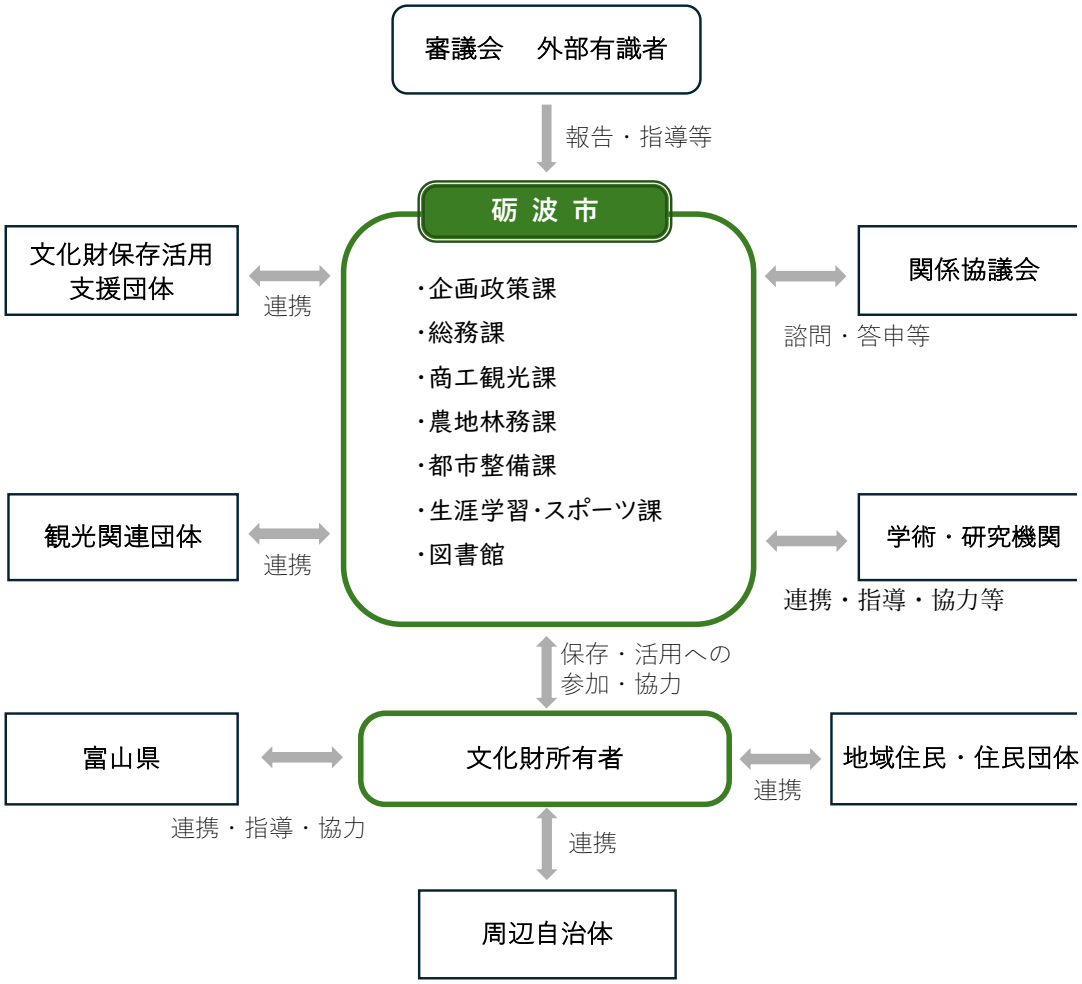
１　文化財の推進体制に関する課題

本計画で定める文化財の保存・活用に関する措置は、砺波市教育委員会生涯学習・スポーツ課を中心として、庁内の関係部局と連携して進めます。また、地域の文化財保存管理団体のほか、文化財活用団体、県内の研究機関等との連携を図ります。さらに、措置の実施にあたっては、砺波市文化財保護審議会をはじめ関係審議会等にも意見を求めるなど、外部有識者とも連携を図ります。また、所有者・管理者である市民との連携も図っていきます。

表１　文化財の保存・活用の体制

表　記	種　類
行　政	【所管課】 **砺波市教育委員会生涯学習・スポーツ課** ・業務内容 ・職員 12 名（うち専門職員１名、文化財に従事する一般職員１名） 【関係課】 **企画総務部　企画政策課** ・関連内容　上位計画となる砺波市総合計画に関すること **商工農林部　商工観光課** ・関連内容　観光振興、観光資源、観光施設等に関すること **商工農林部　農地林務課** ・関連内容　田園空間博物館、屋敷林の剪定、樹木の保護に関すること **産業建設部　都市整備課** ・関連内容　景観まちづくりに関すること **砺波市教育センター** ・関連内容　社会科副読本に関すること 【関係施設】 **砺波市埋蔵文化財センター** ・業務内容　考古資料の展示及び普及啓発に関すること　職員数：５名 **砺波郷土資料館** ・業務内容　博物館資料の展示、資料の収集、整理、保存に関すること 職員数：６名（うち専門職員２名） **砺波民具展示室** ・業務内容　重要有形民俗文化財「砺波の生活・生産用具」の展示 **チューリップ四季彩館** ・業務内容　チューリップの展示、普及啓発に関すること　職員数：○名 **砺波散村地域研究所** ・業務内容　砺波平野の散村の調査、研究、普及啓発に関すること 職員数：３名 **となみ散居村ミュージアム** ・業務内容　散居村資料及び民具の展示、情報発信に関すること 職員数：10 名 **砺波市出町子供歌舞伎曳山会館** ・業務内容　子供歌舞伎曳山資料の展示、情報発信に関すること 職員数：３名
専　門	**文化財保護審議会** ・文化財の保存、活用、調査及び研究に関すること　定員：10 名以内 **文化財保護指導委員** ・文化財の巡視、報告に関すること
団　体	**市内文化財関係活動団体** ・砺波子供歌舞伎曳山振興会、えんなか会、曲輪の会、五ヶ種チョンガレ保存会、砺波えんじゃら節保存会、越中いさみ太鼓保存会、水舞流越中八幡太鼓保存会など

推進体制図



2　体制整備の課題・方針

砺波市は、豊富な文化財を有していますが、文化財に対する専門知識をもった職員が少ないのが現状です。このことが、地域の文化財の現状把握や研究、普及啓発活動が不十分であることに繋がっているともいえます。今後、文化財専門職員の増員を図っていきますが、本計画を推進していくためには、文化財保存関係団体や外部の学術・研究機関、富山県教育委員会と連携を取り、必要なアドバイスを外部から得られる体制を作っていく必要があります。

また、所管課の文化財担当職員が専門知識をもって、庁内の様々な部局で行われる文化財に関する事業を把握し、コーディネートしていくことが求められるとともに、他部局の関係者に文化財に対する理解を浸透させていく必要があります。

第 10 章　文化財の防災・防犯

1　文化財の防災・防犯に関する課題

近年、全国的に、自然災害や火災等による文化財の損傷や滅失被害が相次いでいます。本市においても例外ではなく、過去様々な災害に見舞われてきました。砺波平野では古くから庄川の氾濫による洪水が発生しており、江戸時代には計 139 回の記録が残されています。なかでも明和 9 年（1772）、明治 29 年（1896）、昭和 9 年（1934）の洪水での被害が大きく、松川除堤防が決壊したり、太田橋が流出するなどの記録が残されています。

洪　水

また、歴史的にみると、平安時代の貞観地震、安土・桃山時代の天正地震、江戸時代末の飛越地震などたびたび大きな地震が起こっています。高波地区の御館山館跡の発掘調査では、それらの地震による液状化現象や地割れ・断層の痕跡が確認されました。近年では、令和６年能登半島地震で石川県を中心に多くの被害があり、市内でも有形民俗文化財「岩黒の不吹堂（ふかんどう）」が崩壊するなど歴史文化資源にこれまでにない損傷を受けました。火災では、明治・大正に起こった出町の大火や青島の大火が知られています。明治 33 年（1900）の出町の大火では本町交差点から東側の 188 戸が全焼し、多くの歴史的建造物が失われました。

地　震

大　火

本市では、博物館等の公共施設には防火設備が整備されていますが、未整備のものや、所有者の管理に委ねているものが多くあります。地域の貴重な歴史文化資源を守るため、被災を未然に防ぐための防災・防犯の対策や、被災した場合の対応について、全庁的な連携や、消防関係機関、文化財所有者や専門家と連携しつつ、災害に備えていく必要があります。

2　歴史文化資源の防災・防犯に関する方針

本市では、災害対策基本法第 42 条の規定に基づき、平成 18 年 (2006)3 月に砺波市防災会議が「砺波市地域防災計画」を策定しました（令和 5 年 (2023)2 月改訂）。同計画では、本市における災害予防、災害応急及びその事前対策、災害復旧に関する事項を定め、防災活動を総合的かつ計画的に実施することにより災害による被害の軽減を図り、市民の生命・財産を保護するとともに、社会秩序の維持及び公共の福祉に資することを目的としており、歴史文化資源の防災・防犯も、同計画に準拠した方針を定めていくものとします。

(1) 各種災害に対する方針

○指定等文化財の所有者又は管理団体若しくは施設の所有者に対し、防災・防犯に関する指導、助言を行います。

○非常時に備えて収蔵品等個々の歴史文化資源の所在、所有者等の情報を、文化財データベース等を活用して把握します。

○風水害対策として、特性に応じた風水害予防管理や収蔵庫等の整備充実を推進します。

○震災対策として、保管施設の耐震化など、必要に応じて措置を講じます。

○火災対策として、防火管理や収蔵庫、消防施設、避雷針等の防火施設・設備の充実を促進します。また、防火標識等の設置を促進し、所有者や見学者等の防火意識を高めます。

○「文化財防火デー」を中心に、消防関係機関と連携し、指定文化財所有者や地域住民らが参

加する防火訓練を実施し、地域の歴史文化資源への防火意識を高めます。

レスキュー
○災害時に歴史文化資源を守るため、平常時において、地域住民が資料のレスキュー・保全のノウハウを学べるよう、砺波市文化財保護審議会と連携して資料保全の啓発活動に取り組みます。

文化財保護指導員
○富山県の事業で実施している文化財保護指導員による文化財パトロールに協力して取組み、指定等文化財及び周辺のパトロールを強化することで、早期の修復等対策を実施し、文化財の良好な維持管理に努めます。

○文化庁により定められた「国宝･重要文化財（建築物）等の防火対策ガイドライン」、「国宝･重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」（令和元年（2019）9月）及び「世界遺産・国宝等における防火対策5か年計画」（令和元年12月）に基づき文化財や文化財収蔵施設の点検を行い、今後の防火対策に取り組みます。

(2) 被災後の歴史文化資源の取扱い

○災害により歴史文化資源に被害が及んだ場合、被災した歴史文化資源は安易に移動、破棄せず、被害状況を確認後、砺波市文化財保護審議会と連携し、専門家等の指導助言を受けながら移動・修復の可否を判断します。

移動・修復

浸水・汚損
○浸水、汚損等による被害について、紙本類や木製品等は洗浄や乾燥について慎重を期す必要があることから、砺波市文化財保護審議会と連携し、専門家等の指導助言のもと対応に当たります。

二次災害
○史跡や植物について、土地の崩落や倒木等の発生など二次災害も想定されることから、関係機関との協議のもと、必要に応じて一時的な措置を行い、本格的な修復については専門家等の指導助言を受けながら進めます。

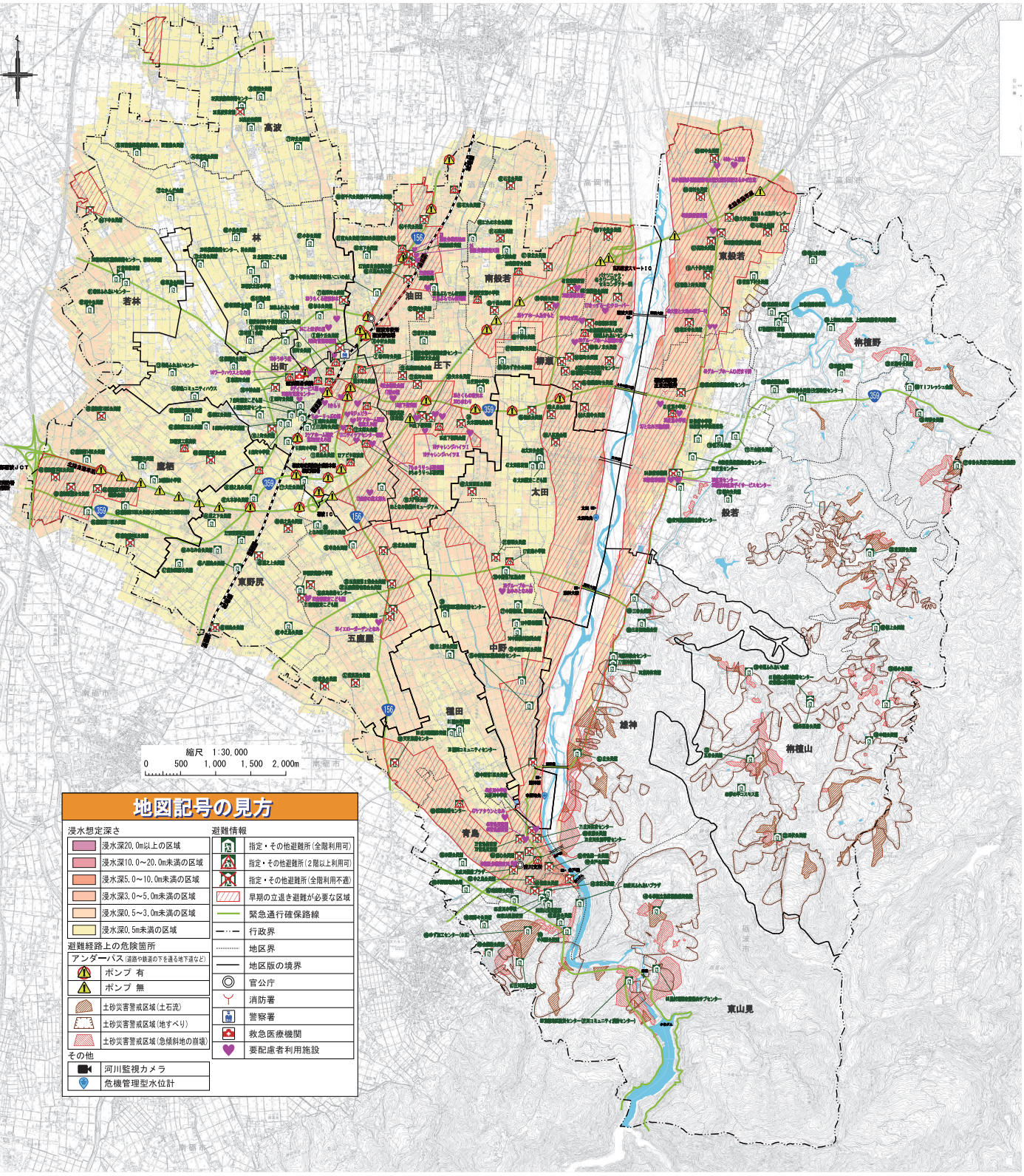
○災害で被災した際には､独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターと連携を図ります。

3　歴史文化史源の防災・防犯に関する措置

課題、方針に基づく歴史文化資源の防災・防犯の取り組みとして、次の措置を実施します。

方針２：文化財に対する適切な評価

番号	事業名 事業概要	新規 継続	実施 主体	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
15	**文化財の防火対策事業** 歴史文化資源の火災や盗難による消失を防ぐために、市、消防関係機関、指定等文化財所有者、地域住民で防火訓練を行う。	継続	行政 専門団体 市民	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
16	**文化財パトロールの推進** 文化財保護指導員による文化財パトロールを実施。	〃	行政	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
17	**文化財メンテナンスの実施** 文化財保護強調週間に看板清掃とともに文化財の状態を確認する。	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
18	**被災文化財レスキューの実施** 被災文化財の救出・保管に努め、被災文化財の救出・保全の体制整備について文化財保護審議会と連携して取り組む。	新規	行政 専門団体	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→



砺波市洪水ハザードマップ　　平成 30 年（2018）

砺波市における過去の災害記録

西暦	年号	災害記録	事　　項
863	貞観 5	地震	越中・越後で**貞観地震**が発生し、山崩れ・住宅損壊・圧死者多数
1406	応永 13	洪水	洪水により雄神川（庄川）の流路が変わる。
1586	天正 13	地震	**天正地震**が発生。金屋の東の山が崩れ、川を堰き止め、20 日後に流れ出た水で庄川が東に移り、今の川筋ができる。
1608	慶長 10	洪水	庄川氾濫、杉木の市場流される。
1772	明和 9	洪水	**庄川の洪水**　松川除が切れ、大水害を受ける。 雪どけ水で増水し、松川除が決壊。このとき、元の千保川が本流となる。
			－　江戸時代には計 139 回の洪水の記録あり　－
1781	天明 1	強風	西町大火、19 軒消失
1792	寛政 4	強風	庄の大火、33 戸焼失
1813	文化 10	強風	中町大火、16 軒焼失、3 軒潰家
1831	天保２	洪水	松川除が大破
1855	安政 2	強風	新町大火、40 軒焼失
1858	安政５	地震	飛騨・越中・加賀・越前で**飛越地震**が発生
1896	明治 29	洪水	**庄川の洪水**　千保川に水が溢れ、下流の高岡市が大きな被害を受ける。
1900	明治 33	強風	**出町大火**、四辻以東全焼
1901	明治 34	強風	**青島大火**、66 軒焼失
1920	大正 9	強風	**青島大火**、一般民家 24 軒、青島尋常小学校焼失
1934	昭和 9	大雨	**庄川大洪水**で太田橋が流出。堤防を５カ所破壊
1940	昭和 15	大雪	最深積雪 2.43m の大雪を記録
1944	昭和 19	強風	若林・林村の散村大火となる。出町大火、209 戸が焼失
1963	昭和 38	大雪	最深積雪 2.37m の大雪を記録
1981	昭和 56	大雪	最深積雪 1.81m の大雪を記録
2011	平成 23	大雪	最深積雪 1.16m の大雪を記録
2012	平成 24	強風	屋敷林の倒壊等多数被害　最大瞬間風速 39.8m/s を記録（観測史上 1 位）
2016	平成 28	強風	4 月　最大瞬間風速 32.0m/s を記録（観測史上 2 位） 5 月　最大瞬間風速 28.1m/s を記録 史上初の「となみチューリップフェア」臨時閉園（5 月 3 日午後）
2021	令和 3	大雪	最深積雪 1.27m の大雪を記録
2023	令和５	豪雨	市内で床上、床下浸水が発生、市道・水田などで被害
2024	令和６	地震	**令和６年能登半島地震**で震度５弱を観測 住宅の破損や漏水、墓・石碑等の倒壊多数